



知的障がい特別支援学級
特別支援学校との学びの連続性を取り入れた

授業づくりガイドブック

小学校特別支援教育

学びの連続性を踏まえた単元構成・授業づくり



岩手県立総合教育センター
教育支援相談担当



はじめに

本書は、小学校と特別支援学校（知的障がい）との学びの連続性を踏まえた単元構成や授業づくりについて解説することで、指導する先生方の授業づくりに役立てていただくことを目的とするものです。

平成 29 年 3 月に告示された小学校学習指導要領では、特別な配慮を必要とする児童への指導についての内容が充実しました。また、特別支援学校学習指導要領においては、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいて各教科等の目標や内容が示され、小学校や中学校との学びの連続性や関連性が整理されています。



「授業づくりガイドブック」の構成

本書は、知的障がい特別支援学級の子ども達への授業づくりについて理解を深め、日々の指導・支援に生かすことができるよう、教育課程の考え方や授業づくりの方法と例、授業づくりの参考となる資料を 2 章構成でまとめました。

第 1 章 教育課程の分類

特別支援学級は、特別の教育課程を編成することができることとされていることから特別な教育課程の例を示します。

第 2 章 授業づくりガイド

特別支援学校、小学校、中学校の学びの連続性が重視されています。そこで、特別支援学校との連続性に焦点を当て、特別支援学校の目標や内容を取り入れた授業づくりについて解説します。

目 次

第1章 教育課程の分類

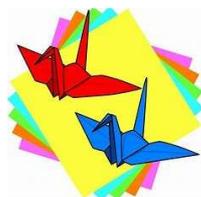
- 1 教育課程編成の特例 1
- 2 小学校及び特別支援学校（知的障がい）の教育課程 2
- 3 特別の教育課程の編成 3
 - (1) 小学校の各教科等を中心に編成した教育課程 4
 - (2) 小学校の各教科等に特別支援学校（知的障がい）の各教科等を取り入れて編成した教育課程 5
 - (3) 小学校の各教科等に各教科等を合わせた指導を取り入れて編成した教育課程 6

第2章 授業づくりガイド

- 1 「授業づくり活用パック」の概要 7
- 2 生活単元学習と関連付けた教科の授業づくり 12
- 3 各教科の授業づくり（生活単元学習と関連付けない場合） 18
- 4 教科用図書 28

引用文献・参考文献

- 引用文献・参考文献 29



第1章 教育課程の分類

1 教育課程編成の特例

特別支援学級の教育課程編成について、小学校学習指導要領解説総則編で以下のように示されています。

特別支援学級は、学校教育法第81条第2項の規定による知的障害者、肢体不自由者、身体虚弱者、弱視者、難聴者、その他の障害のある者で、特別支援学級において教育を行うことが適切なものである児童を対象とする学級であるとともに、小学校の学級の一つであり、学校教育法に定める小学校の目的及び目標を達成するものでなければならない。

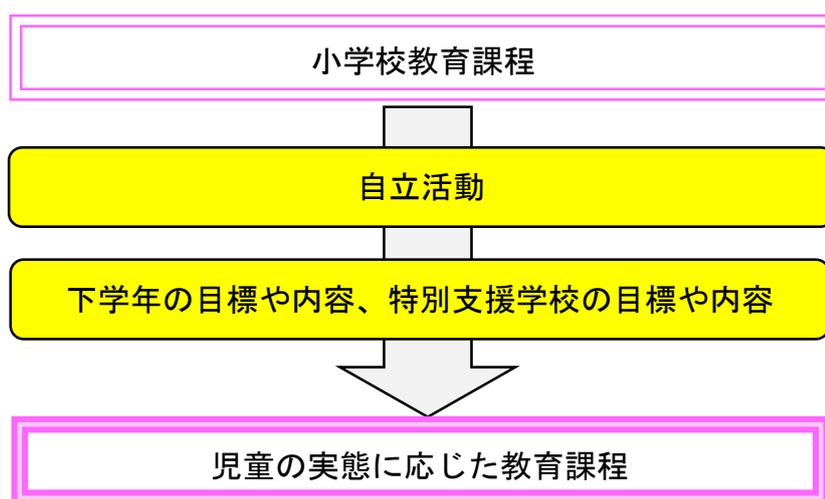
「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編 p.108」より

しかし、児童の障がいの種類や程度等によっては、障がいのない児童に対する教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当でない場合があります。そこで、特別支援学級の教育課程について以下のように示されています。

- ・障害による学習上又は生活上の困難を克服し、自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す**自立活動**を取り入れること。
- ・児童の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を**下学年の教科の目標や内容に替えたり**、各教科を知的障害者である児童に対する教育を行う**特別支援学校の各教科に替えたりする**など、実態に応じた教育課程を編成すること。

「小学校学習指導要領 第1章総則 第4の2の(1)のイ」より

○特別の教育課程とは・・・



小学校通常の学級の教育課程に、児童の実態に合わせて「自立活動」「下学年の目標や内容」「特別支援学校の目標や内容」を取り入れて、児童の実態に応じた教育課程を編成することです。

2 小学校及び特別支援学校（知的障がい）の教育課程

小学校の教育課程の構造図を【図1】、特別支援学校の教育課程の構造図と指導の形態を【図2】に示します。特別支援学校においては、児童の実態等に即した指導内容を選択・組織する教育的対応が重要であり、教育課程を再編成して指導に当たっています。この、教育課程を再編成したものが、指導の形態です。

各教科									特別の教科道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動
国語	社会	算数	理科	生活	図画工作	家庭	体育	外国語				

【図1】 小学校の教育課程の構造図

社会、理科は3年生から。生活は1・2年生。家庭、外国語は5・6年生。外国語活動は3・4年生。総合的な学習の時間は3年生から。

各教科						特別の教科道徳	外国語活動	特別活動	自立活動
生活	国語	算数	音楽	図画工作	体育				

外国語活動は、実態に応じて3年生から取り入れてもよい。

再編成

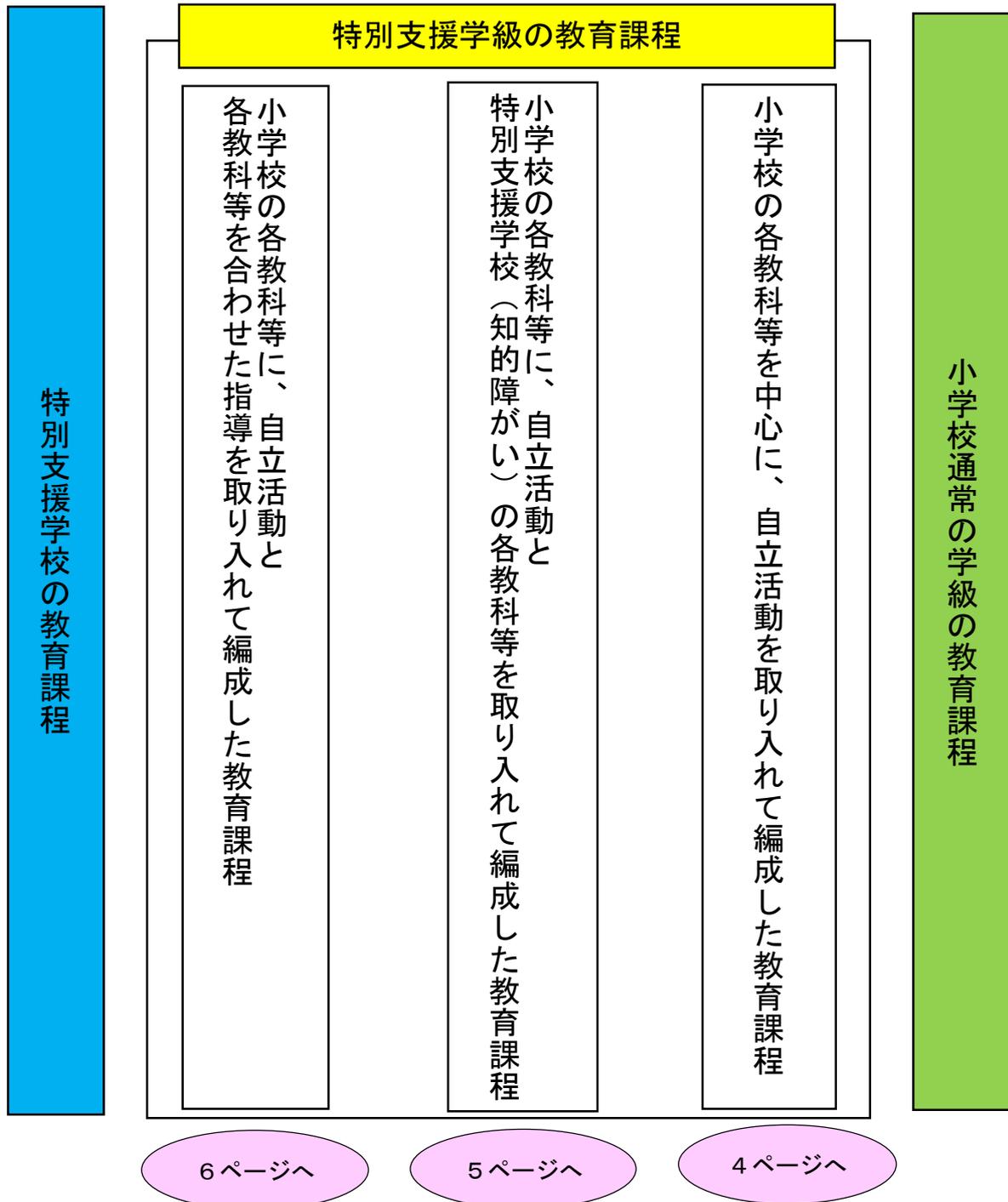
各教科						特別の教科道徳	外国語活動	特別活動	自立活動	各教科等を合わせた指導			
生活	国語	算数	音楽	図画工作	体育					日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	作業学習

【図2】 特別支援学校（知的障がい）の教育課程の構造図と指導の形態

児童の学校での生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいくことが効果的であることから実践されている。

3 特別の教育課程の編成

特別支援学級の教育課程は、特別の教育課程であり、小学校通常の学級の教育課程と、特別支援学校の教育課程の間に位置するものと考えられます。児童の年齢や障がいの実態は様々ですので例示にとどまりますが、実態に近いものを選び、参考にしてください。



(1) 小学校の各教科等を中心に編成した教育課程

小学校通常の学級の教育課程を基に、自立活動を取り入れて、各教科等が中心の教育課程です。各教科等の時数も、通常の学級に準じています。ただし、実際の指導においては、児童の実態に合わせて下学年の目標や内容を取り入れて行います。時数配当の例【表1】と、時間割の例を示します。時間割の○印は、交流学級での学習を表します。

このような児童が対象です！

各教科等を合わせた指導は取り入れず、各教科等の学習が中心である。

【表1】時数配当表

	教科別の指導										特別の教科道徳	外国語活動	学習の総合的な時間	特別活動	自立活動	合計
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語						
2年生の標準時数	315		175		105	70	70		105		35			35		910
Aさんの時数	280		175		105	70	70		105		35			35	35	910
5年生の標準時数	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35		70	35		1015
Bさんの時数	140	100	175	105		50	50	60	90	70	35		70	35	35	1015

〈2年生Aさんの時間割の例〉

	月	火	水	木	金
1	算数	国語	○道徳	国語	○体育
2	国語	算数	国語	算数	国語
3	○生活	○図工	算数	○体育	算数
4	国語	○図工	国語	○生活	○音楽
5	○音楽	国語	○体育	○学活	○生活
6					自立

Aさんは、国語と算数を、Bさんは、国語、社会、算数、理科を、特別支援学級で行っています。その他の授業は、交流学級で行っています。

〈5年生Bさんの時間割の例〉

	月	火	水	木	金
1	○道徳	算数	算数	算数	自立
2	国語	国語	国語	国語	○体育
3	○家庭	社会	○音楽	○図工	理科
4	○外国語	○体育	○総合	○図工	算数
5	算数	○学活	理科	理科	社会
6	社会	委・ク	○体育		○総合

特別支援学級で行う教科の授業は、下学年の目標と内容を取り入れています。5年生の社会と理科は、生活に即した内容を重視し、児童の興味・関心を大切にします。

自立活動は、週に1時間時間割に位置付けて指導します。

交流学級においても個別の配慮は必要であり、学習内容など、担任同士で連絡を取って決めます。

第1章 教育課程の分類

(2) 小学校の各教科等に特別支援学校（知的障がい）の各教科等を取り入れて編成した教育課程

小学校通常の学級の教育課程に、特別支援学校（知的障がい）の教育課程を取り入れたものです。各教科等を合わせた指導の中から、児童の実態に合わせて「日常生活の指導」と「生活単元学習」を取り入れました。時数配当の例【表2】と、時間割の例を示します。時間割の○印は、交流学級での学習を表します。

このような児童が対象です！

各教科等を合わせた指導を取り入れ、学習や生活の流れに即して学んでいくことが必要である。

【表2】時数配当表

	教科別の指導										特別の教科道徳	外国語活動	学習の時間 総合的な	特別活動	自立活動	日常生活の指導	生活単元学習	合計
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語								
2年生の標準時数	315		175		105	70	70		105		35			35				910
Cさんの時数	210		160		90	50	50		75		15			15	35	35	175	910
5年生の標準時数	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35		70	35				1015
Dさんの時数	175	70	140	70		35	35	35	70	35	35		35	70	35		175	1015

〈2年生Cさんの時間割〉

	月	火	水	木	金
1	生活単元学習				
2	国語				
3	算数	算数	算数	道徳	算数
4	○音楽	生活	生活	生活	○体育
5	日常	○図工	○図工	○体育	学活
6					自立

※日常：日常生活の指導 自立：自立活動

各教科等を合わせた指導の中から、日常生活の指導と生活単元学習を取り入れます。

可能な限り帯状の時間割になるようにすることで、学校生活にまとまりをもたせることができます。

〈5年生Dさんの時間割〉

	月	火	水	木	金
1	生活単元学習				
2	国語				
3	自立	算数	算数	道徳	算数
4	社会	○音楽	○家庭	算数	理科
5	○体育	○体育	理科	社会	学活
6	○外国語	委・ク	○図工		○総合

※委・ク：委員会またはクラブ

各教科等を合わせた指導の中から、生活単元学習を取り入れます。

CさんもDさんも、特別支援学級で行う教科の授業は、下学年の目標と内容を取り入れています。

第1章 教育課程の分類

(3) 小学校の各教科等に各教科等を合わせた指導を取り入れて編成した教育課程

小学校通常の学級の教育課程に、特別支援学校（知的障がい）を参考に各教科等を取り入れた教育課程です。各教科等を合わせた指導の中から、児童の実態に合わせて「日常生活の指導」と「生活単元学習」を取り入れ、帯状の時間割になるようにしました。時数配当の例【表3】と、時間割の例を示します。

このような児童が対象です！

- ・各教科等を合わせた指導を取り入れ、学習や生活の流れに即して学んでいくことが必要である。
- ・交流学級や学年の行事には参加するが、ほとんどの時間を特別支援学級で過ごしている。

【表3】時数配当表

	教科別の指導										特別の教科道徳	外国語活動	学習の時間 総合的な	特別活動	自立活動	日常生活の指導	生活単元学習	合計
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語								
2年生の標準時数	315		175		105	70	70		105		35		35					910
Eさんの時数	175		35		0	70	70		35		0		0	105	70	350		910
5年生の標準時数	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35		70	35				1015
Fさんの時数	175	0	105	0		35	35	0	35	0	0		70	35	70	105	350	1015

〈2年生Eさんの時間割〉

	月	火	水	木	金
1	日常	自立活動			日常
2	国語				
3	生活単元学習				
4	生活単元学習				
5	音楽	音楽	体育	図工	図工
6	算数				

※日常：日常生活の指導

〈5年生Fさんの時間割〉

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導	総合			日常
2	国語				
3	生活単元学習				
4	生活単元学習				
5	音楽	図工	算数	算数	算数
6	自立	委・ク	体育		自立

※自立：自立活動 委・ク：委員会またはクラブ

各教科等を合わせた指導の中から、日常生活の指導と生活単元学習を取り入れます。

特別支援学級で行う教科の授業は、下学年の目標と内容または、特別支援学校の目標と内容を取り入れています。

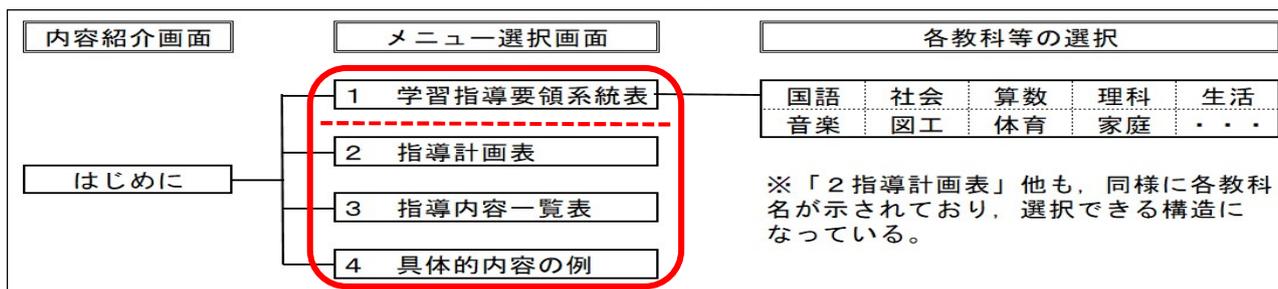
可能な限り帯状の時間割にして、学校生活にまとまりをもたせます。パターン化されると、児童にとって分かりやすく、安心感にもつながります。

1 「授業づくり活用パック」の概要

このソフトを使用することにより、小学校の目標や内容と特別支援学校の目標や内容を同時に見ることができ、授業の見通しをもつことができます。

○「授業づくり活用パック」の構成

このソフトは、「1 学習指導要領系統表」「2 指導計画表」「3 指導内容一覧表」「4 具体的内容の例」の4つのシート群で構成されています。「1 学習指導要領系統表」と、「2 指導計画表」「3 指導内容一覧表」「4 具体的内容の例」の二つのExcel データになっています。これらのデータはリンクしているため、両方をダウンロードしてお使いください。



【図3】「授業づくり」活用パックの構成

小学校特別支援学級 「授業づくり活用パック」

1 学習指導要領系統表

2 指導計画表

3 指導内容一覧表

4 具体的内容の例

1 と 2 3 4

Excelで二つのデータになって
います。データはリンクしている
ので、両方開いてお使いください。

特別支援学級においては、児童の実態に合わせ、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、各教科を、知的障害特別支援学校の各教科に変えたりするなどできるとされています。また、学習指導要領の改訂に伴い、特別支援学校では小・中学校との学びの連続性が重視され、各教科において目指す資質・能力は、小・中学校と同じるつ柱に基づき整理されました。

特別支援学級は、在籍児童の数は少ないもののその実態の幅は広く、特別支援学校の目標や内容を取り入れることも必要とされます。日々の授業づくりにお役立てください。

【図4】「はじめに」のシート

必要なところを
クリック!

1 学習指導要領系統表

特別支援学校と小学校の学習指導要領より、目標と内容を整理しました。同じ内容を、柔軟に見ることができます。

国語	社会	算数	理科	生活
音楽	図工	体育	家庭	外国語活動・外国語
特別の教科道徳	総合的な学習	特別活動		

2 指導計画表

学習と生活の両面での、指導計画表です。学習と生活の両面に関し、授業で生じる児童の個別の指導計画に活用できます。指導内容は、「指導内容一覧表」とリンクしており、選択入力することができます。

国語・算数	社会・理科	生活
音楽・図工・体育	家庭・外国語活動・外国語	道徳・特別活動

3 指導内容一覧表

特別支援学校と小学校の学習指導要領より、指導内容を並び替えた、内容を、柔軟に見ることができます。「指導内容一覧表」とリンクしています。

国語	社会	算数	理科	生活
音楽	図工	体育	家庭	外国語活動・外国語
特別の教科道徳	特別活動			

4 具体的内容の例

特別支援学校学習指導要領の解説文より、支援学校の指導内容をより具体的に示したものです。指導内容の一例です。

国語	算数	生活	
音楽	図工	体育	外国語活動・外国語

【図5】「メニューシート」のシート

メニュー選択画面「メニューシート」は、4つのシート群から構成されています。それぞれのシート群から、各教科等を選択できるようになっているので、必要な教科等を選んで使うことができます。

第2章 授業づくりガイド

1 学習指導要領系統表

学習指導要領の改訂に伴い、特別支援学校の学習指導要領では、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき、各教科等の目標と内容が構造的に示されました。また、小学校及び中学校の各教科等の目標や内容等との連続性や関連性が整理されました。小学校の学習指導要領では、特別な配慮を要する児童への支援の内容が充実しました。これらを踏まえ、特別支援学級においては、特別支援学校と小学校両方の目標及び内容を踏まえた授業づくりが必要とされています。

このシート群は、特別支援学校と小学校の各教科等の目標と内容を整理したものです。目標及び内容がどのように発展しているかを見直すことができます。

教科の目標と各段階・学年ごとの目標

	知的障がい特別支援学校（小学部）	小学校
教科の目標	音源による見方・考え方を働かせ、音韻活動を通じて、音源で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	音源による見方・考え方を働かせ、音韻活動を通じて、音源で正確に理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	(1) 日常生活について必要な音源について、その特徴を理解し使うことができるようになる。	(1) 日常生活について必要な音源について、その特徴を理解し適切に使うことができるようになる。
思考力・判断力・表現力等	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝えあう力を付け、思考力や判断力を養う。	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝えあう力を養い、思考力や判断力を養う。
学びに向かう力、人間性等	(3) 音源で伝えあうよさを喜びるとともに、音韻感覚を養い、音源を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	(3) 音源がもつよさを認識するとともに、音韻感覚を養い、音源の大切さを自覚し、音源を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

目標	1段階	2段階	3段階	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
知識及び技能	ア日常生活に必要な音源が分かりやすいようにするとともに、いろいろな音源や我が国の音文化に触れることができるようになる。	ア日常生活に必要な音源を身に付けることとともに、いろいろな音源や我が国の音文化に触れることができるようになる。	ア日常生活に必要な音源の知識や技能を身に付けることとともに、我が国の音文化に触れ、楽しむことができるようになる。	(1) 日常生活に必要な音源の知識や技能を身に付けることとともに、我が国の音文化に親しんだり理解したりすることができるようになる。	(1) 日常生活に必要な音源の知識や技能を身に付けることとともに、我が国の音文化に親しんだり理解したりすることができるようになる。	(1) 日常生活に必要な音源の知識や技能を身に付けることとともに、我が国の音文化に親しんだり理解したりすることができるようになる。
思考力、判断力、表現力等	ア音源がもつよさを喜びるとともに、音源の大切さを自覚し、音源を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	ア音源がもつよさを喜びるとともに、音源の大切さを自覚し、音源を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	ア音源がもつよさを喜びるとともに、音源の大切さを自覚し、音源を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	(3) 音源がもつよさを喜びるとともに、楽しんで音源を聞き、音源を大切に、思いや考えを伝えあおうとする態度を養う。	(3) 音源がもつよさを喜びるとともに、幅広く音源を聞き、音源を大切に、思いや考えを伝えあおうとする態度を養う。	(3) 音源がもつよさを認識するとともに、進んで音源を聞き、音源の大切さを自覚し、思いや考えを伝えあおうとする態度を養う。
学びに向かう力、人間性等	ア音源がもつよさを喜びるとともに、音源の大切さを自覚し、音源を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	ア音源がもつよさを喜びるとともに、音源の大切さを自覚し、音源を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	ア音源がもつよさを喜びるとともに、音源の大切さを自覚し、音源を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	(3) 音源がもつよさを喜びるとともに、楽しんで音源を聞き、音源を大切に、思いや考えを伝えあおうとする態度を養う。	(3) 音源がもつよさを喜びるとともに、幅広く音源を聞き、音源を大切に、思いや考えを伝えあおうとする態度を養う。	(3) 音源がもつよさを認識するとともに、進んで音源を聞き、音源の大切さを自覚し、思いや考えを伝えあおうとする態度を養う。

1段階から5・6年生へ

知識及び技能 言葉の特徴や使い方に関する事項の一部

1段階	2段階	3段階	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア音源の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。			(1) 音源の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、音源が事物の内容を表していることを感じる。	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、音源が、気持ちや要求を表していることを感じる。	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、音源には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	ア音源には、事物の内容を表す働きや、強調したことを伝える働きがあることに気付くこと。	ア音源には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	ア音源には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
	※（知識及び技能）に示す各内容は、知覚障害のある児童の音源の獲得に関する発達段階等を踏まえ、1段階及び2段階では扱っていないものがある。	(イ) 姿勢や口形に気をつけて話すこと。	イ音源と文字との関係、アクセントによる音源の意味の違いなどに気付くことともに、姿勢や口形、発音や発音に注意して話すこと。	イ相手を見て話したり聞いたりするとともに、音源の強弱や語調、聲の取り方などに注意して話すこと。	イ話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。
	(イ) 日常生活でよく使われている仮名遣い	(イ) 日常生活でよく使われる仮名遣い、長音などが含まれること。	イ長音、短音、撥音、撥音などの表記、動詞の活用	イ漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行	イ文や文章の中で漢字と仮名を適切に用いること
1段階から5・6年生へ					
		もに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	されたものを読み、ローマ字で書くこと。	
		Ⅱ第1学年においては、訓読の学年別漢字相当表（以下「学年別漢字相当表」といふ。）の第1学年に相当されている漢字を読み、漢字遣い、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字相当表の第2学年までに対応されている漢字を読み、また、第1学年に対応されている漢字を読み、文や文章の中で使うこと。また、第2学年に対応されている漢字を読み、文や文章の中で使うこと。	Ⅱ第2学年及び第3学年の各学年においては、学年別漢字相当表の当該学年までに対応されている漢字を読み、また、当該学年の前の学年までに対応されている漢字を読み、文や文章の中で使うこと。また、第1学年に対応されている漢字を読み、文や文章の中で使うこと。	Ⅱ第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字相当表の当該学年までに対応されている漢字を読み、また、当該学年の前の学年までに対応されている漢字を読み、文や文章の中で使うこと。また、第1学年に対応されている漢字を読み、文や文章の中で使うこと。	Ⅱ第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字相当表の当該学年までに対応されている漢字を読み、また、当該学年の前の学年までに対応されている漢字を読み、文や文章の中で使うこと。また、第1学年に対応されている漢字を読み、文や文章の中で使うこと。

【図6】学習指導要領系統表（国語科）

2 指導計画表

児童の教育的ニーズに応え、スモールステップで学習を積み上げていくためには、見通しをもって指導に当たることや、記録に残しておくことが大切です。学期初めや年度初めの指導計画を立てる際に活用することができます。指導内容は、「3 指導内容一覧」とリンクしているので、その中から指導内容を選ぶことができます。また、直接入力でも自由に記述することもできます。

指導計画				
小学校と特別支援学校（知的）の内容（白は特別支援学校のみの内容）				
教科等	指導内容	年度当初の様子	支援内容（方法・場面・時期など）	年度末の様子
国語	知識・技能			
	聞くこと・話すこと			
	話すこと・聞くこと			
	書くこと			
	読むこと			

【図7】指導計画表

いつ頃、どんな場面で、どんな方法でなど、具体的な支援について記入します。

年度末（学期末）の様子を記入します。要録（通知票）に反映させたり、引き継ぎに使ったりすることができます。



3 指導内容一覧表

特別支援学校と小学校の学習指導要領から、特別支援学校の1段階から小学校6年生までの順に指導内容を並べ替えたものです。小学校段階の学習が難しい児童に、同じ指導内容でどんなことを指導すればよいか見ることができます。また、指導内容がどのように発展しているかを捉えることができるので、指導に見通しをもつことができます。また、児童の実態把握にも使えるように、表を付けました。

知的障がい特別支援学校・小学校（国語）		段階は知的障がい特別支援学校，学年は小学校				
指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
ア（ア）身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が物事の内容を表していることを感	1段階					
ア（ア）身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感	2段階					
ア（ア）身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあること。	3段階					
（1）ア言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあること。	1・2年					
（1）ア言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	3・4年					
（1）ア言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。	5・6年					
ア（イ）姿勢や口形に気を付けて話すこと。	3段階					
（1）イ音節と文字との関係	1・2年					
（1）イ相手を見て話し	3・4年					
（1）イ話し言葉と書	5・6年					
ア（イ）日常生活で	2段階					
ア（ウ）日常でよく使	3段階					
（1）ウ長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の	1・2年					
（1）ウ漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うと	3・4年					
（1）ウ文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正	5・6年					
（1）エ第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第	1・2年					

1段階から順に

同じ内容のものを、1段階から順に並べました。内容によっては、3段階からのもの、小学校からのものなどあります。内容がどのように発展しているか見ることができます。

【図8】指導内容一覧表

◎、○、△の記号などでチェックし、児童の実態把握に使います。基準は各学校・学級で設定してください。児童数が多い場合は、表を増やすこともできます。

【図8】は、国語「知識及び理解」言葉の特徴や使い方の一部です。各教科等の指導内容をメニュー画面から選択できます。

4 具体的内容の例

特別支援学校の学習指導要領解説を参考に、指導内容をより具体的に示したものです。何を、どのように指導すればよいか、把握することができます。小学校の指導内容と合わせて、特別支援学校の指導内容を知ることは、特別支援学級担任に求められていることでもあります。児童が、学習内容をどの程度達成されているかを把握したり、実際の指導に生かしたりすることができます。

	指導内容	段階	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
言葉の特徴や使い方に関する	1日常生活や遊びの中で、声や音のする方に振り向いたり、耳を傾けたりする。	1					
	1教師や友達など、生活の中で関わる様々な人の話し言葉に聞き慣れる。	2					
	2テレビやラジオなどの媒体を通じた音声の口調や速度に聞き慣れる。	2					
	1教師や友達との会話や読み聞かせを通して、物事の内容を表す言葉の働きに関心をもつ。	3					
	2教師の話し掛けに表情や身振りで応じる。	1					
	3教師の話し掛けに音声模倣などによる発声や発語で応じる。	1					
	4教師や友達と一緒に声を出したり、手を叩いたりして、言葉のもつ音やリズムに関心をもつ。	1					
	3言葉を用いることで、気持ちや要求が相手に伝わるのがわかる。	2					
	2背筋を伸ばし、落ち着いた気持ちで話す。	3					
	3唇や舌などを適切に使って発音する。	3					
	4平仮名に関心をもつ。	2					
	5平仮名で書かれた自分の名前が分かる。	2					
	6平仮名で書かれた友達の名前が分かる。	2					
	7平仮名で書かれた動物の名前が分かる。	2					
	4絵本や易しい読み物、わらべ歌、テレビやコンピューターの画面に出てくる促音、長音等	3					
5平仮名を読む。	3						

【図9】 具体的内容の例

具体的に示されています。教材・教具の準備の参考にもなります。

児童の実態把握等に活用できます。

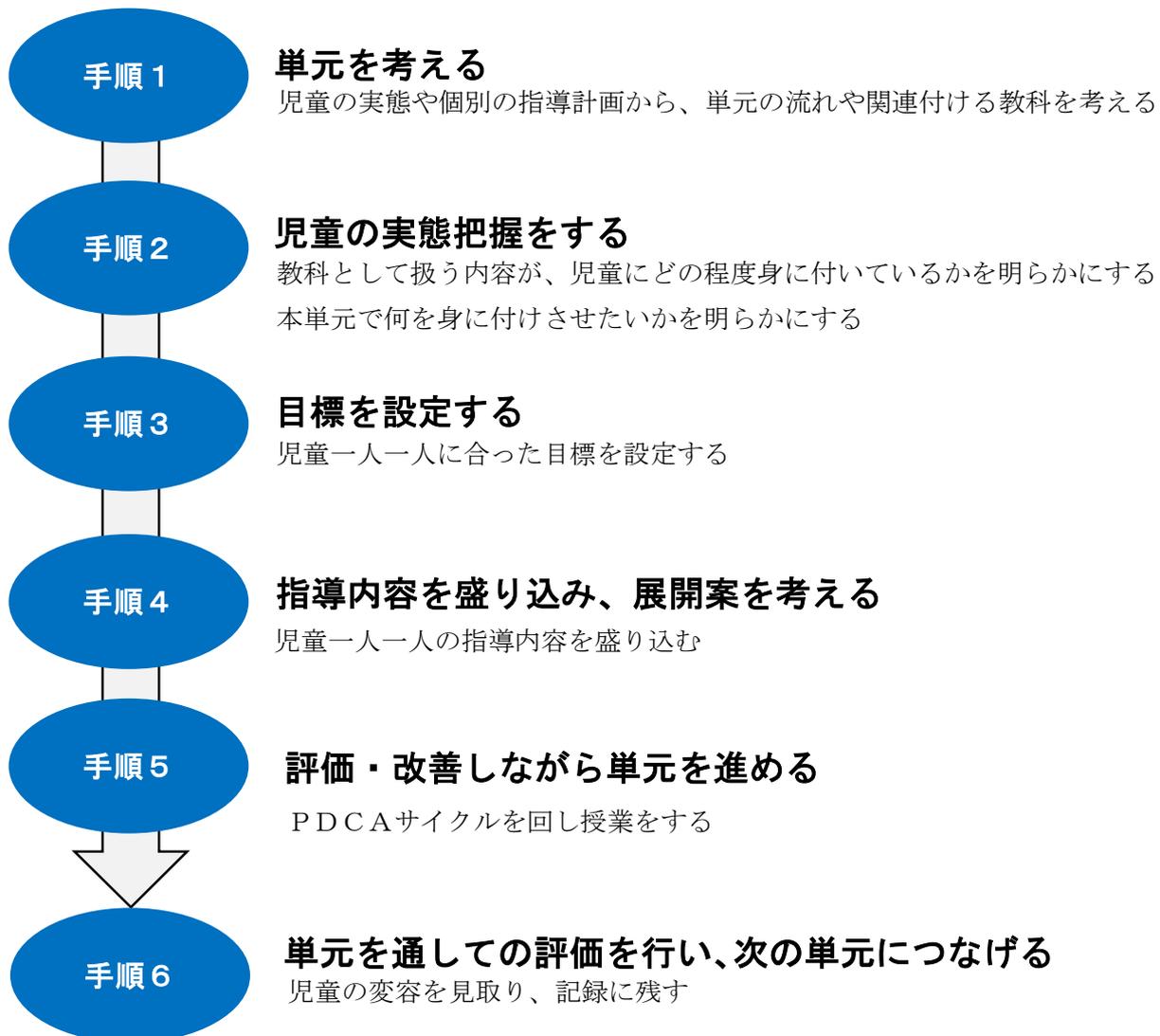
【図9】は、国語「知識及び理解」言葉の特徴や使い方の一部です。各教科等の指導内容をメニュー画面から選択できます。

2 生活単元学習と関連付けた教科の授業づくり

特別支援学級での教科指導は、児童の実態に合わせて生活単元学習と関連付けて行ったり、教科として行ったりします。ここでは、生活単元学習と関連付けた教科の授業づくりについて解説します。

生活単元学習と関連付けるとは・・・

生活単元学習の中で、教科別の指導の時間を設けます。教科別の学習として行った時間は、教科の目標と内容で行い、評価も行います。また、教科別の学習として行わなかった部分においても、各教科等との関連を考え、各教科等のどのような力を身に付けたのかを明確にして評価を行い、児童の学習の充実につなげます。



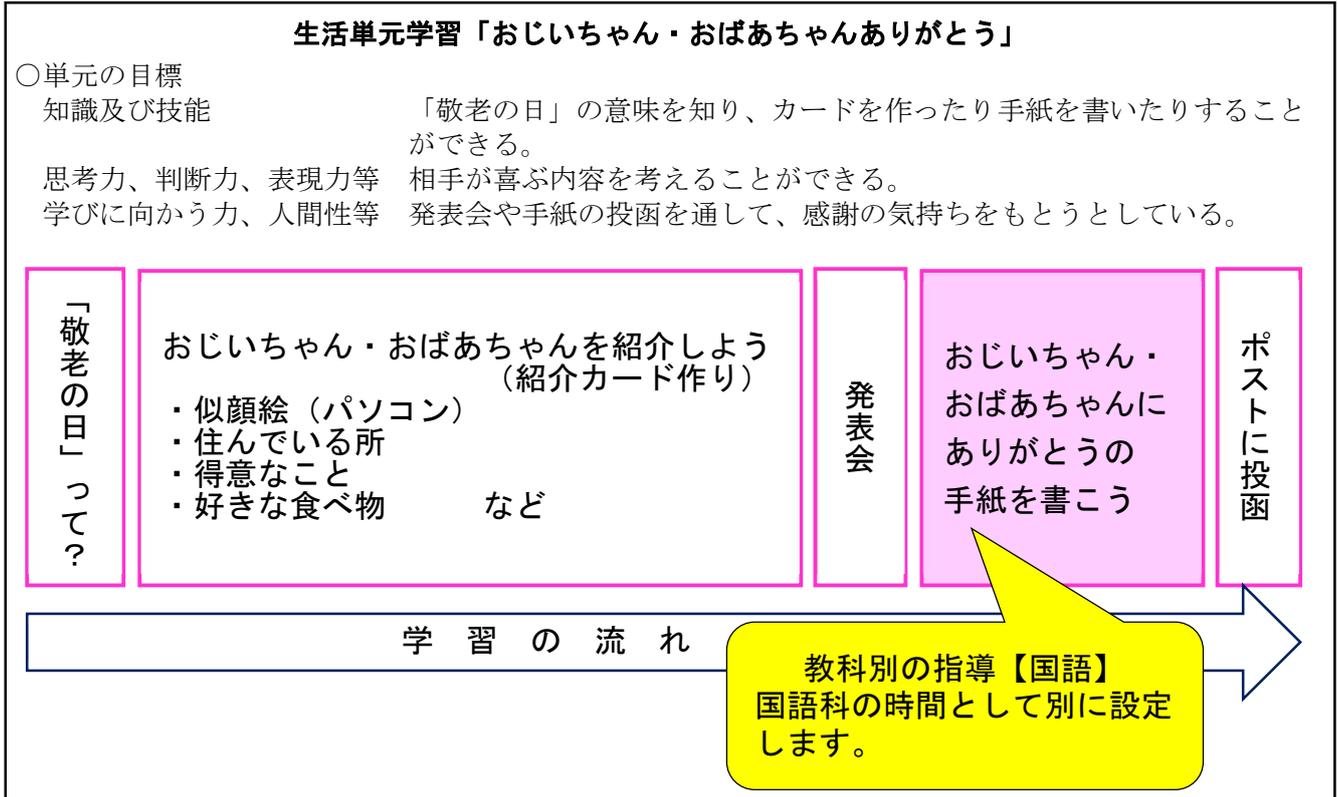
※上記の手順は、本研究の実践を基に示したものです。児童の実態や年間指導計画から単元を構成する場合も考えられます(手順2→手順1)。どちらも場合も、児童の実態を踏まえた目標と手立てを検討することに留意します。

手順1

単元を考える

生活単元学習の流れを明確にします。その中で、教科別の指導として扱いたい内容を確認します。例1は、生活単元学習の中で教科が1つ入る場合、例2は教科が2つ、例3は実技教科が入る場合です。時数は、内容やその他の教科等との関わりで設定します。

例1 1つの教科が入る場合※指導案あり



生活単元学習と関わらせることで、生活に根差し必要感をもって学習を進めることができます。また、教科として取り立てて指導を行うことで、上記の例でいえば、文字の練習に力を入れたり、手紙の書き方の指導をしたりするなど、「手紙を書く」ことに重点を置いてじっくり指導することができます。生活単元学習を進めながら、教科の力も培っていききたいときや、時間をかけて指導したい時などに有効です。

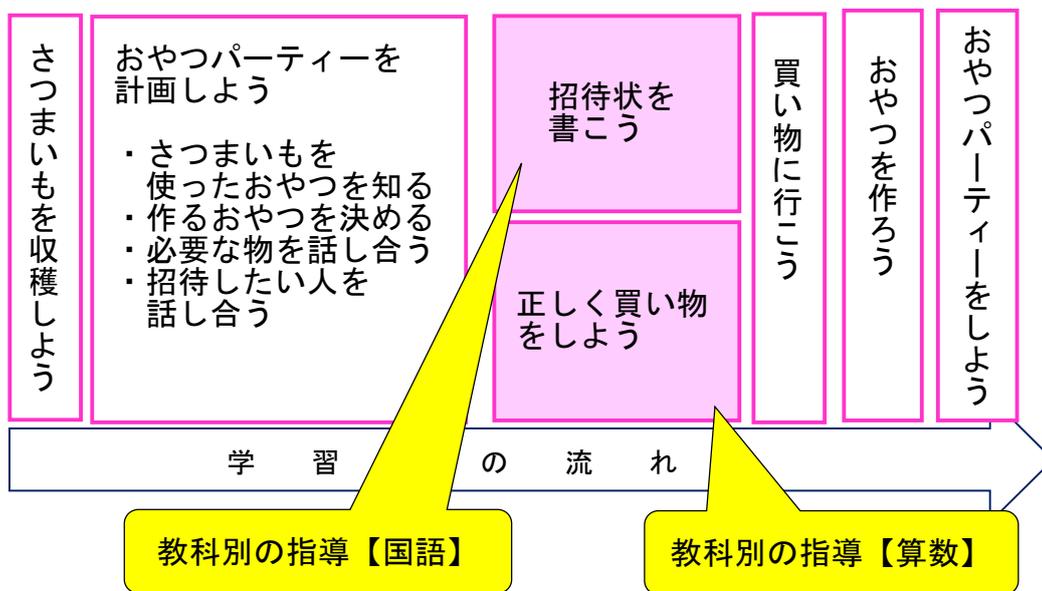


例2 2つの教科が入る場合

生活単元学習「おやつパーティーをしよう」

○単元の目標

知識及び技能 買い物やおやつ作りで、自分の役割を果たすことができる。
 思考力、判断力、表現力等 パーティーを楽しくするための工夫することができる。
 学びに向かう力、人間性等 友達と仲よく活動し、パーティーを楽しもうとしている。

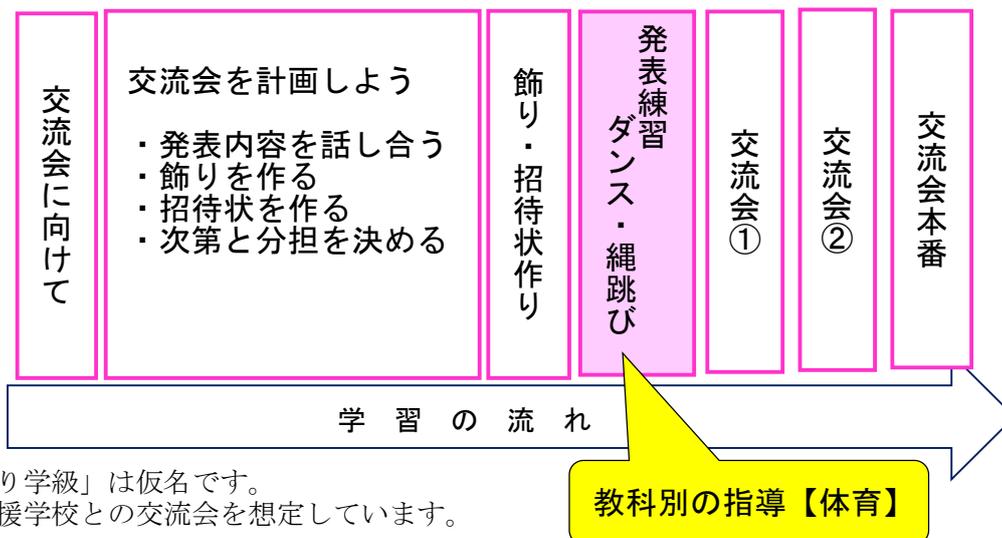


例3 実技教科が入る場合

生活単元学習「ひまわり学級にダンスをプレゼントしよう」

○単元の目標

知識及び技能 交流会に向け、自分の役割を果たすことができる。
 思考力、判断力、表現力等 交流会に向け、発表内容や装飾を考えることができる。
 学びに向かう力、人間性等 友達と一緒に交流会を楽しもうとしている。



※「ひまわり学級」は仮名です。
 特別支援学校との交流会を想定しています。

手順2 児童の実態把握をする

教科別の指導として行う内容について、児童の学習状況ほどの程度であるか実態把握をします。「授業づくり活用パック」の「2 指導内容一覧表」を活用することができます。例1の場合です。

単元名「お手紙を書こう」

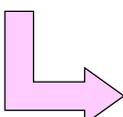
国語科「書くこと」ですので、思考力、判断力、表現力等から「書くこと」と、知識及び技能から単元に関わる内容について実態把握をします。【図10】は、「書くこと」の一部です。記号を使って実態把握を行う例です。

指導内容の中には、複数の内容が含まれています。ここでは、全てできていると判断される場合は十分達成されているとし◎、一つでもできていると判断される場合は概ね達成されているとし○としました。記号の使い方や判断の基準は、児童の実態や単元の内容などによって、各学校や各学級で定めるものです。関係者で共通理解をした上で、設定してください。

		指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
思考力、 判断力、 書くこと 表現力等	書 く こ と	ア身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	1段階	◎	◎	◎	◎	◎
		ア経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	2段階		○		◎	○
		ア身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。	3段階				◎	
		ア経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	1・2年					
		ア相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	3・4年					
		ア目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。	5・6年					

【図10】「書くこと」の実態把握

この学級は、5名の児童が在籍しています。児童Aは1年生、児童Bは2年生、児童Cは4年生、児童Dと児童Eは5年生です。「書くこと」のアに関しては、どの児童も1段階の内容は十分達成されていると判断されます。児童Bは、2段階の内容のうち、手掛かりから選ぶことはできるが思い浮かべることには苦手意識があり、意欲も低下してしまう傾向があることから○になっています。児童Eは、手掛かりから思い浮かべたり、選んだりすることはできるが、教師と一緒に何度もやり取りをしたり繰り返し確認が必要であったり、考えが定まるまでに時間を要することから○になっています。

 特別支援学校の内容を取り入れながら進める必要がある！

手順3 目標を設定する

手順2で行った実態を踏まえて、本単元で目指す内容を★としました。この★の内容を、それぞれの児童の目標にします【図11】。

		指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
思考力、 判断力、 書くこと 表現力等	書くこと	ア身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	1段階	◎	◎	◎	◎	◎
		ア経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、 <u>伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。</u>	2段階	★	○	★	◎	○
		ア身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に <u>必要な事柄を集めること。</u>	3段階		★		◎	★
		ア経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、 <u>伝えたいことを明確にすること。</u>	1・2年				★	
		ア相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、 <u>伝えたいことを明確にすること。</u>	3・4年					
		ア目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、 <u>伝えたいことを明確にすること。</u>	5・6年					

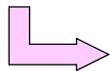
【図11】 目標設定

児童Aは、写真などの手掛かりを基に、手紙に書きたい内容を選ぶことをねらうことにしました。児童Bは、2段階の内容が十分ではありませんが、書きたい内容を思い浮かべながら、さらに情報を集めてそのときの様子や自分の気持ちなど、一言加えて書くことをねらいたいと考えました。児童Cは、写真などの手掛かりを基に書きたいことを選び、そのときの様子を思い浮かべることができることをねらいます。児童Dは、書きたいことを明確にすることを、児童Eは、書きたい内容をさらに詳しくするために必要な事柄を集めることをねらいます。

目標は

- 児童A：「書くこと」において、経験したことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり選んだりすることができる。
- 児童B：「書くこと」において、見聞きしたことや経験したことについて書きたいことを見付け、題材に必要な事柄を集めることができる。
- 児童C：「書くこと」において、経験したことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることができる。
- 児童D：「書くこと」において、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
- 児童E：「書くこと」において、見聞きしたことや経験したことについて書きたいことを見付け、題材に必要な事柄を集めることができる。

例のように、十分に達成されていない内容があっても、単元の流れや内容によって次の段階や学年の内容や目標を設定することもできます。しかし、十分に達成されていない内容を踏まえた展開にすることが大切です。また、同じ段階・学年の内容に目標を置いた場合も、児童によって重点とする内容が異なる場合もあります。教師が、何をねらいたいと考えているかはっきり意識し、目標を設定します。



段階を追って目標設定をすることができる！
個々の目標を基に、学級全体として目指す姿を単元の目標とします。

手順4 指導内容を盛り込み、展開案を考える

設定した目標と内容が単元の中に位置付けられるよう、展開案を考えます。一単位時間で完結させるのではなく、単元を通して達成されるように計画します。障がいの特性からも、繰り返しの学習や五感に訴えるような活動、生活に根ざした活動を盛り込んでいくことが有効です。

手順5 評価・改善しながら単元を進める

単元を進めていくと、予定していた活動ができなかったり、予定以上に進んだりすることがあります。そのため、目標や内容が適切であるか、評価・改善しながら進めます。また、指導内容以外の個人内の変容は、文章で記述しておくこと今後の生活や学習に生かすことができます。

手順6 単元を通しての評価を行い、次の単元につなげる

実態把握と目標設定に使った一覧表に戻ります。単元をとおして、児童の変容を記入します【図12】。単元の途中で目標が変わった場合なども、その旨を記入しておきます。次に「書くこと」または「書くことに関わる内容」の学習をする際、今回の学習に積み重ねることができます。

	指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
書くこと	ア身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	1段階	◎	◎	◎	◎	◎
	ア経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	2段階	○	○	○	◎	○
	ア身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。	3段階		◎		◎	◎
	ア経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	1・2年				◎	
	ア相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	3・4年					
	ア目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。	5・6年		●	●	●	

【図12】単元を通しての評価

次の単元では、一つ上の段階・学年の目標にしよう！

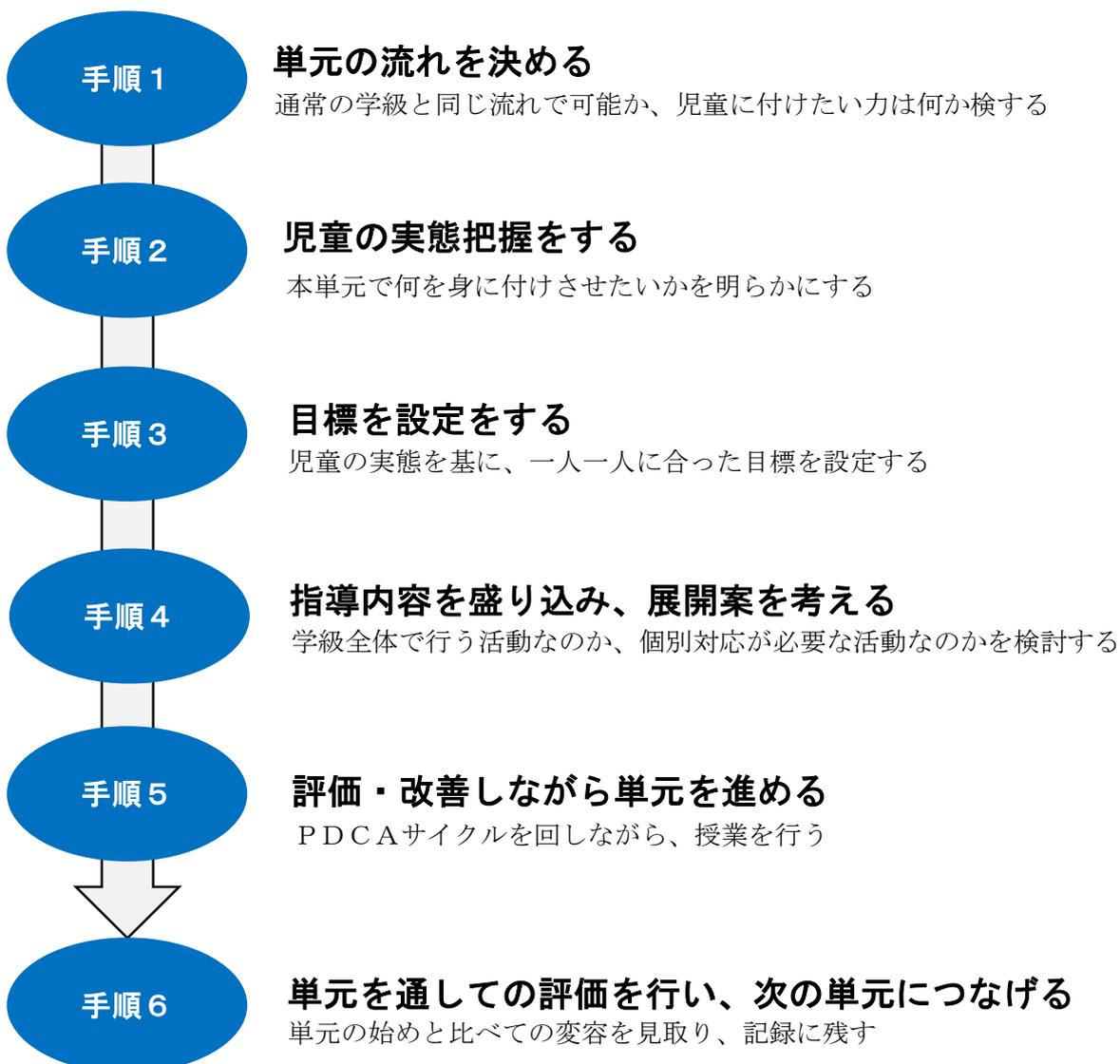
次の単元も、同じ目標だけど、ねらう内容を変えよう！

3 各教科の授業づくり（生活単元学習と関連付けない場合）

特別支援学級の各教科における授業づくりについて、解説します。

教科別の指導の時間は・・・

特別支援学級も、小学校の学級の一つであり、基本的には小学校学習指導要領に基づいて指導を行います。しかし、児童の実態から、下学年の目標や内容を取り入れたり、特別支援学校（知的障がい）の各教科等の目標や内容を取り入れたりする特別の教育課程を編成することが可能であり、児童一人一人に合った目標と内容で行うことが大切です。



※上記の手順は、本研究の実践を基に示したものです。児童の実態や年間指導計画から単元を構成する場合も考えられます（手順2→手順1）。どちらも場合も、児童の実態を踏まえた目標と手立てを検討することに留意します。

例1 国語科「読むこと」 ※指導案あり（補助資料1）

手順1 単元の流れを決める

単元の流れを明確にします。教科書を扱う場合は、指導書や通常の学級で行っている流れを参考にします。教科書を扱わない場合は、なぜその単元を構成したのか、児童にどんな力を付けたいのかを明らかにして進めることが大切です。例1は、国語科「読むこと」で、特別支援学校（知的障がい）「こくご☆☆☆」を参考に、児童の実態から構成した単元です。例2は、算数科「C測定」で長さを扱った単元です。時数は、内容やその他の教科等との関わりで設定します。

短い文章を音読して、教師とやり取りしながらあらすじの大体を捉えることができる児童がいる一方、読み聞かせが中心の児童もいる。一つの読み物をじっくり読んであらすじを捉えたり、登場人物の気持ちを想像したりしながら、物語を読む面白さを味わわせたいなあ・・・。

国語科「ブレーメンのまちはなし」

○単元の目標

知識及び技能

語のまとまりに気を付け、内容の大体を意識しながら音読することができる。

思考力、判断力、表現力等

「読むこと」において、童話を読み、時間の経過などの大体を捉え、登場人物の行動や気持ちの変化を考えることができる。

学びに向かう力、人間性等

童話に興味をもち、音読や動作化を楽しもうとしている。

動物たちが出会い、
ブレーメンに向かう場面

一の場面を読み取る

動物たちが森の中で、
泥棒たちの家を見付ける場面

二の場面を読み取る

泥棒たちが逃げて、
動物たちがごちそうを食べる場面

三の場面を読み取る

動物たちが森の中の家で、
仲よく暮らしていく場面

四の場面を読み取る

自分が気に入った場面を紹介する

お気に入りの場面を
紹介する

学 習 の 流 れ

この例は、「こくご☆☆☆」を参考に構成した単元です。「起承転結がはっきりしている」「似た構成の話が繰り返されていて、順を追って読むことができる」「挿絵などから登場人物の気持ちが想像できる」「動作化などで表現しやすい」ことから、この物語を選びました。

手順2 児童の実態把握をする

児童の学習状況はどの程度であるか、実態把握をします。「授業づくり活用パック」の「2 指導内容一覧表」を活用することができます。

単元名「ブレーメンのまちはなし」

国語科「読むこと」ですので、思考力、判断力、表現力等から「読むこと」と、知識及び技能から単元に関わる内容について実態把握をします【図13】。

指導内容の中には、複数の内容が含まれています。ここでは、全てできていると判断される場合は十分達成されているとし◎、一つでもできていると判断される場合は概ね達成されているとし、○としました。記号の使い方や判断の基準は、児童の実態や単元の内容などによって、各学校や各学級で定めるものです。関係者で共通理解をした上で、設定してください。

		指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
知識及び技能	言葉の特徴や使い方	ア(カ)正しい姿勢で音読すること。	3段階		◎		◎	○
		(1)ク語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	1・2年				◎	
		(1)ク文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	3・4年					
		(1)ク比喩や反復などの表現に気付くこと。	5・6年					
		(1)ケ文章を音読したり朗読したりすること。	5・6年					
思考力、判断力、表現力等	読むこと	イ絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。	1段階	◎	◎	◎	◎	◎
		イ教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。	2段階		○		○	○
		イ絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。	3段階		○		○	○
		イ場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	1・2年				○	
		イ登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	3・4年					
		イ登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	5・6年					
		エ絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	1段階	○	◎	○	◎	◎
		エ絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	2段階		◎		◎	◎
		エ登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。	3段階		○		○	○
		エ場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	1・2年				○	
		エ登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	3・4年					
		エ人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	5・6年					

【図13】「知識及び技能」と「読むこと」の実態把握

この学級は、5名の児童が在籍しています。児童Aは1年生、児童Bは2年生、児童Cは4年生、児童Dと児童Eは5年生です。物語文の学習であり、音読から読み取りを行いたいと考え、「知識及び技能」の中から、音読に関わる内容を取り上げました。音読の力が十分にあるとは言えず、拾い読みの児童が多いことが分かりました。また、「読むこと」に関しては、あらすじの大体を捉えることができる児童がいる一方で、教師と一緒に読んだり挿絵と結び付けたりしながらあらすじを確認するなどの支援を要する児童がいて、個人差が大きいことが分かりました。

➡ 特別支援学校の内容を取り入れながら、個に応じた指導が必要！

手順3 目標を設定する

手順2で行った実態を踏まえて、本単元で目指す内容を★としました。この★の内容を、児童の目標にします【図15】。

		指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
知識及び技能	言葉の特徴や使い方	ア(カ)正しい姿勢で音読すること。	3段階	★	◎	★	◎	○
		(1)ク語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	1・2年		★		◎	★
		(1)ク文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	3・4年				★	
		(1)ク比喩や反復などの表現に気付くこと。	5・6年					
		(1)ケ文章を音読したり朗読したりすること。	5・6年					
思考力、判断力、表現力等	読むこと	イ絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。	1段階	◎	◎	◎	◎	◎
		イ教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。	2段階	★	○	★	○	○
		イ絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。	3段階		○		○	○
		イ場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	1・2年		★		○	★
		イ登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	3・4年				★	
		イ登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	5・6年					
		エ絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	1段階	○	◎	○	◎	◎
		エ絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	2段階	★	◎	★	◎	◎
		エ登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。	3段階		○		○	○
		エ場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	1・2年		★		○	★
		エ登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。	3・4年				★	
		エ人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	5・6年					

【図14】目標設定

児童Aと児童Cは、音読の経験が十分でないため、しっかり座って背筋を伸ばして読むという音読に向かう姿勢をつくることをねらいます。読み取りに関しては、教師と一緒に一つずつ確認しながら、誰が何をしたかというおおまかなあらすじを捉えることをねらいます。会話や動物の鳴き声を真似して、発声できればよいと思います。児童Bと児童Eは、語のまとまりを意識して音読をすること、登場人物の行動を順に読み取ることであらすじを捉えることをねらいます。児童Dは、内容を意識した音読で、読む量も増やしていきたいと考えました。読むことに関しては、登場人物の行動を根拠にして、気持ちも考えさせたいと思います。読み取ったことを表現するために、ペープサートを使った劇を取り入れます。

目標は

- 児童A：「読むこと」において、教師と一緒にお話を見て、時間の経過などの大体を捉えることができる。
- 児童B：「読むこと」において、内容の大体を捉え、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- 児童C：「読むこと」において、教師と一緒にお話を見て、時間の経過などの大体を捉えることができる。
- 児童D：「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えることができる。
- 児童E：「読むこと」において、内容の大体を捉え、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

特別支援学校の内容も踏まえ、目標をはっきりもつことができる！
個々の目標を基に、学級全体として目指す姿を単元の目標とします。

手順4

指導内容を盛り込み、展開案を考える

設定した目標と内容が単元の中に位置付けられるよう、展開案を考えます。一単位時間で完結させるのではなく、単元を通して達成されるように計画します。障がいの特性からも、繰り返しの学習や五感に訴えるような活動、生活に根ざした活動を盛り込んでいくことが有効です。

手順5

評価・改善しながら単元を進める

単元を進めていくと、児童ができるようになったことや新たな課題が見えてきます。そのため、目標や内容が適切であるか、評価・改善しながら進めます。また、指導内容以外の個人内の変容は、文章で記述しておくこと今後の生活や学習に生かすことができます。

手順6

単元を通しての評価を行い、次の単元につなげる

実態把握と目標設定に使った一覧表に戻ります。単元を通して、児童の変容を記入します【図15】。単元の途中で目標が変わった場合なども、その旨を記入しておきます。次に「読むこと」または「読むこと」に関わる内容の学習をする際、今回の学習に積み重ねることができます。

		指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
知識及び技能	言葉の特徴や使い方	ア(カ)正しい姿勢で音読すること。	3段階	△	◎	△	◎	○
		(1)ク語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	1・2年		◎		◎	○
		(1)ク文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	3・4年	○			◎	
		(1)ク比喩や反復など						
		(1)ク文章を						
		音読は、日常的に取り組もう！						
思考力、判断力、表現力等	読むこと	イ絵本などを見て、知っている事や言葉などについて	1段階	◎	◎	◎	◎	◎
		イ教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。	2段階	○	○	○	○	○
		イ絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。	3段階		○		○	○
		イ場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	1・2年		○		○	◎
		イ登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	3・4年				◎	
		イ登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	5・6年					
		エ絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	1段階	○	◎	○	◎	◎
		エ絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	2段階	◎	◎	◎	◎	◎
		エ登場人物になったつもりで			○		○	○
		エ場面の様子			◎		○	◎
エ登場人物の気持	4年				◎			
エ人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	5・6年							
		ペープサート劇を楽しくできた。 表現活動を今後も取り入れよう！						

【図15】単元を通しての評価

例2 算数科「C 測定」

手順1 単元の流れを決める

長さの学習は1年生から始まるけれど、個別指導が中心で操作活動が足りないなあ。子ども達の「長さ」の学習状況はどのくらいだろう……。

算数科「長さ比べ・長さ調べ」

○単元の目標

知識及び技能

直接比較、間接比較などによって長さを比べる方法を知ることができる。

長さを単位量やいくつ分やcmなどの単位で測定することができる。

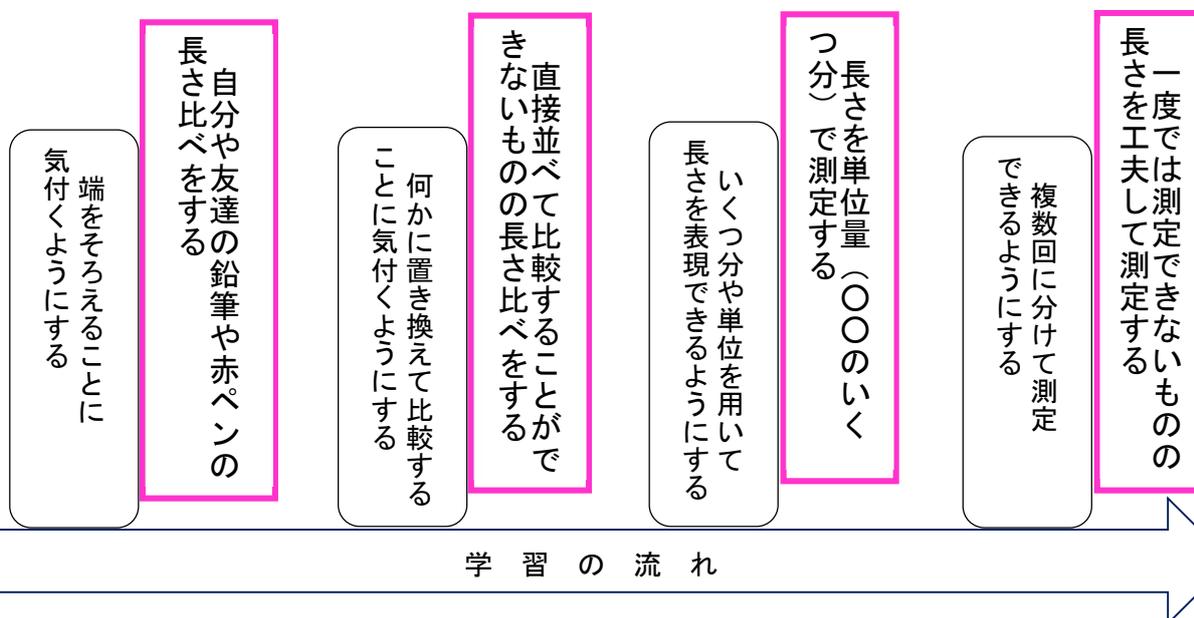
思考力、判断力、表現力等

長さを比較したり測定したりする方法を考えることができる。

「〇〇のいくつ分」やcmなどの単位を用いて表現することができる。

学びに向かう力、人間性等

教え合ったり助け合ったりしながら、身の周りのものの長さを調べようとしている。



この例は、小学校の教科書の内容を参考に構成した単元です。低学年から高学年まで在籍している学級であり、個人差も大きいことから、測定するための道具や測定する物を実態に合わせて変え、操作活動に変化をつけます。また、直接比較と間接比較の両方を行い、「長さ」の実感をもたせたいと考えます。

手順2 児童の実態を把握する

単元に関わる児童の学習状況はどの程度であるか、実態把握をします。「授業づくり活用パック」の「2 指導内容一覧表」を活用することができます。

単元名「長さ比べ・長さ調べ」

算数科「C測定」ですので、「C測定」の内容のうち、単元に関わる内容について実態把握をします【図16】。

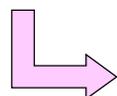
指導内容の中には、複数の内容が含まれています。ここでは、全てできていると判断される場合は十分達成されているとし◎、一つでもできていると判断される場合は概ね達成されているとし○としました。記号の使い方や判断の基準は、児童の実態や単元の内容などによって、各学校や各学級で定めるものです。関係者で共通理解をした上で、設定してください。

	指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C
C測定 (第1学年・第2学年・第3学年) (1段階はD)	【具体物のもつ大きさ・知】ア㉗大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。	1段階	◎	◎	◎
	【具体物のもつ大きさ・知】ア㉘ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。	1段階	◎	◎	◎
	【具体物の量の大きさ・知】ア㉙長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。	2段階	◎	◎	◎
	【具体物の量の大きさ・知】ア㉚二つの大きさの量について、一方を基準にして相対的に比べること。	2段階	○	○	○
	【具体物の量の大きさ・知】ア㉛長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。	2段階	○	○	○
	【ものの大きさ・知】(1)(ア)長さ、広さ、かさなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。	1年		○	○
	【ものの大きさ・知】(1)(イ)身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つかで大きさを比べること。	1年		○	○
	【具体物のもつ大きさ・思】ア㉜大小や多少等で区別することに関心をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。	1段階	○	○	○
	【具体物の量の大きさ・思】ア㉝長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもち、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	2段階	○	○	○
	【ものの大きさ・思】(1)(ア)身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。	1年		○	○
	【量の単位と測定・知】ア㉞長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。	3段階		○	○
	【量の単位と測定・知】ア㉟身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つかで大きさを比較すること。	3段階		○	○
	【量の単位と測定・知】(1)(ア)長さの単位(ミリメートル(mm)、センチメートル(cm)、メートル(m))及びかさの単位(ミリリットル(mL)、デシリットル(dL)、リットル(L))について知り、測定の意味を理解すること。	2年			
	【量の単位と測定・知】(1)(イ)長さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を適切に選択して測定すること。	2年			
	【量の単位と測定・知】(1)(ア)長さの単位(キロメートル(km))及び重さの単位(グラム(g)、キログラム(kg))について知り、測定の意味を理解すること。	3年			
	【量の単位と測定・知】(1)(イ)長さや重さについて、適切な単位で表したり、およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること。	3年			
	【量の単位と測定・思】ア㉟身の回りのもの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。	3段階		○	○
	【量の単位と測定・思】(1)(ア)身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること。	2年			
【量の単位と測定・思】(1)(ア)身の回りのものの特徴に着目し、単位の関係を統合的に考察すること。	3年				

【図16】「C測定」の実態把握

第2章 授業づくりガイド

この学級は、3名の児童が在籍しています。児童Aは1年生、児童Bは3年生、児童Cは5年生です。児童Aと児童Cは、在籍学年相応の内容を取り上げることができます。しかし、下学年や段階（特別支援学校）の内容が十分達成されていない内容もあり、繰り返し学習する必要があります。児童Cは、前学年までに学習はしているものの、定着が思わしくありません。小学校の内容を中心に、特別支援学校の内容も取り入れるとよいことが分かりました。



小学校の内容を中心に、特別支援学校の内容を取り入れながら、個に応じた指導が必要！

手順3

目標設定をする

手順2で行った実態を踏まえて、本単元で目指す内容を★としました。この★の内容を、児童の目標にします【図17】。

	指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C
C 測定 (第1学年・第2学年・第3学年) (1段階はD)	【具体物のもつ大きさ・知】ア⑦大きさを長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。	1段階	◎	◎	◎
	【具体物のもつ大きさ・知】ア④ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。	1段階	◎	◎	◎
	【具体物の量の大きさ・知】ア⑦長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。	2段階	◎	◎	◎
	【具体物の量の大きさ・知】ア④二つの大きさの量について、一方を基準にして相対的に比べること。	2段階	○	○	○
	【具体物の量の大きさ・知】ア⑦長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。	2段階	○	○	○
	【もの大きさ・知】(1)(ア)長さ、広さ、かさなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。	1年	★	○	○
	【もの大きさ・知】(1)(イ)身の回りにあるもの大きさを単位として、その幾分か大きさを比べること。	1年	★	○	○
	【具体物のもつ大きさ・思】ア⑦大小や多少等で区別することに興味をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。	1段階	○	○	○
	【具体物の量の大きさ・思】ア⑦長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに興味をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	2段階	○	○	○
	【もの大きさ・思】(1)(ア)身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。	1年	★	○	○
	【量の単位と測定・知】ア⑦長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。	3段階	★	○	○
	【量の単位と測定・知】ア④身の回りにあるもの大きさを単位として、その幾分か大きさを比較すること。	3段階	★	○	○
	【量の単位と測定・知】(1)(ア)長さの単位(ミリメートル(mm)、センチメートル(cm)、メートル(m))及びかさの単位(ミリリットル(mL)、デシリットル(dL)、リットル(L))について知り、測定の意味を理解すること。	2年		★	★
	【量の単位と測定・知】(1)(イ)長さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を適切に選択して測定すること。	2年		★	★
	【量の単位と測定・知】(1)(ア)長さの単位(キロメートル(km))及び重さの単位(グラム(g)、キログラム(kg))について知り、測定の意味を理解すること。	3年			
	【量の単位と測定・知】(1)(イ)長さや重さについて、適切な単位で表したり、およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること。	3年		★	★
【量の単位と測定・思】ア⑦身の回りのもの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。	3段階	★	○	○	
【量の単位と測定・思】(1)(ア)身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること。	2年		★	★	
【量の単位と測定・思】(1)(ア)身の回りのものの特徴に着目し、単位の関係を統合的に考察すること。	3年				

【図17】目標設定

第2章 授業づくりガイド

児童Aは、概ね在籍学年相応の内容をねらいます。しかし、前学年や特別支援学校段階の内容が十分達成されているわけではなく、○が◎になるように繰り返し指導することが必要です。児童Bは、前学年の内容を中心に、在籍学年の内容も取り入れながら学習しています。児童Cは、前学年までの内容で、ものさしの使い方や読み方を学習しています。しかし、目的に応じた単位を使うことや、単位の関係の理解は十分ではありません。ものさしの使い方を復習しながら、長さを比べたり表現したりする活動が必要です。

目標は

児童A：「知識及び技能」長さを直接比べたり、他のものを用いていくつ分かで比べたりすることができる。

「思考力、判断力、表現力等」身の回りのものの特徴や単位に着目して、比較したり表現したりすることができる。

児童B：「知識及び技能」長さの単位を知り、およその見当を付けて、単位を適切に選択して測定することができる。

「思考力、判断力、表現力等」身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で、表現したり比べたりすることができる。

児童C：「知識及び技能」長さの単位を知り、およその見当を付けて、単位を適切に選択して測定することができる。

「思考力、判断力、表現力等」身の回りのものの特徴に着目し、単位の関係を考えながら表現することができる。

 **小学校の内容に特別支援学校の内容も取り入れ、目標設定をすることができる！**

個々の目標を基に、学級全体として目指す姿を単元の目標とします。

手順4

指導内容を盛り込み、展開案を考える

設定した目標と内容が単元の中に位置付けられるよう、展開案を考えます。一単位時間で完結させるのではなく、単元を通して達成されるように計画します。障がいの特性からも、繰り返しの学習や五感に訴えるような活動、生活に根ざした活動を盛り込んでいくことが有効です。また、教え合ったり説明し合ったりすることで、友達のよさを認め合う機会にもなります。

手順5

評価・改善しながら単元を進める

単元を進めていくと、児童ができるようになったことや新たな課題が見えてきます。そのため、目標や内容が適切であるか、評価・改善しながら進めます。また、指導内容以外の個人内の変容は、文章で記述しておくことと今後の生活や学習に生かすことができます。

手順6

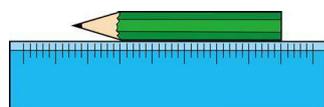
単元を通しての評価を行い、次の単元につなげる

実態把握と目標設定に使った一覧表に戻ります。単元をとおして、児童の変容を記入します【図18】。単元の途中で目標が変わった場合なども、その旨を記入しておきます。次に「C測定」を学習する際、今回の学習に積み重ねることができます。

第2章 授業づくりガイド

	指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C
C測定（第1学年・第2学年・第3学年）（1段階はり）	【具体物のもつ大きさ・知】ア㉗大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。	1段階	◎	◎	◎
	【具体物のもつ大きさ・知】ア㉘ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。	1段階	◎	◎	◎
	【具体物の量の大きさ・知】ア㉗長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。	2段階	◎	◎	◎
	【具体物の量の大きさ・知】ア㉘二つの大きさの量について、一方を基準にして相対的に比べること。	2段階	○	○	○
	【具体物の量の大きさ・知】ア㉙長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。	2段階	○	○	○
	【ものの大きさ・知】(1)(ア)長さ、広さ、かさなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。	1年	◎	○	○
	【ものの大きさ・知】(1)(イ)身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。	1年	◎	○	○
	【具体物のもつ大きさ・思】ア㉗大小や多少等で区別することに関心をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。	1段階	○	○	○
	【具体物の量の大きさ・思】ア㉗長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもち、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	2段階	○	○	○
	【ものの大きさ・思】(1)(ア)身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。	1年	○	○	○
	【量の単位と測定・知】ア㉗長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。	3段階	◎	○	○
	【量の単位と測定・知】ア㉘身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較すること。	3段階	◎	○	○
	【量の単位と測定・知】(1)(ア)長さの単位（ミリメートル（mm）、センチメートル（cm）、メートル（m））及びかさの単位（ミリリットル（mL）、デシリットル（dL）、リットル（L））について知り、測定の意味を理解すること。	2年		◎	◎
	【量の単位と測定・知】(1)(イ)長さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を適切に選択して測定すること。	2年		◎	◎
	【量の単位と測定・知】(1)(ア)長さの単位（キロメートル（km））及び重さの単位（グラム（g）、キログラム（kg））について知り、測定の意味を理解すること。	3年			
	【量の単位と測定・知】(1)(イ)長さや重さについて、適切な単位で表したり、およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること。	3年		○	◎
【量の単位と測定・思】ア㉗身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。	3段階	○	○	○	
【量の単位と測定・思】(1)(ア)身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること。	2年		◎	◎	
【量の単位と測定・思】(1)(ア)身の回りのものの特徴に着目し、単位の関係を統合的に考察すること。	3年			○	

【図18】単元を通しての評価



算数の授業以外でも、生活の中で
長さ比べをしよう！

指導を繰り返し、定着を図ろう！

4 教科用図書

特別支援学級で使用される教科用図書に関する法律は、以下のとおりです。

学校教育法第34条第1項

小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書^①又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書^②を使用しなければならない。

(中学校第49条・特別支援教育第82条によりこれを準用)

学校教育法附則第9条

高等学校，中等教育学校の後期課程及び特別支援学校並びに特別支援学級においては，当分の間，第34条第1項の規定にかかわらず，文部科学大臣の定めるところにより，第34条第1項に規定する教科用図書以外の教科用図書^③を使用することができる。

よって、特別支援学級で使用される教科書は・・・

① 検定教科書

通常学級で使用されている教科書です。

② 文部科学省著作教科書

知的障害者用の著作教科書は、通称「星本（☆本）」と呼ばれていて、国語・算数・音楽・生活があります。☆は一つから五つまであり、通常☆一つが低学年用、二つが中学年用、三つが高学年用、四つと五つが中学部用です。

③ 学校教育法附則第9条に規定する教科書

特定の題材もしくは一部の分野しか取り扱っていない図書、例えば辞書、問題集、ワークブック等は教科書として適切でなく、教科書として使用できる図書は市町村によって採択されています。

「②文部科学省著作教科書」「③学校教育法附則第9条に規定する教科書」は、児童の実態に合わせて特別支援学校の目標や内容を取り入れる際、参考にすることができます。また、「①検定教科書」と「②文部科学省著作教科書」の系統性を知ることは、授業をつくる上で有効です。この他に、教科用特定図書等として、拡大教科書、点字教科書、読み上げ機能が付いている教科書があります。

引用文献

- ・文部科学省(2018)、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東洋館出版社、p.108、p.185

参考文献

- ・岩手県教育委員会(2019)、『平成32年度において使用する義務教育諸学校の教科用図書採択基準』
- ・岐阜県教育委員会(2018)、『特別支援学級担任・通級指導教室担当のための手引き』
- ・国立特別支援教育総合研究所(2015)、平成25～26年度専門研究B『知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策に関する研究』
- ・国立特別支援教育総合研究所(2016)、平成26～27年度専門研究A『特別支援教育の進展に資する特別支援学校及び特別支援学級における教育課程に関する実際研究』
- ・文部科学省(2018)、『小学校学習指導要領(平成29年告示)』
- ・文部科学省(2018)、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東洋館出版社
- ・文部科学省(2018)、『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』